

70

ユーザー定義で用語集を見た訪問者を追跡しよう

初級

中級

上級

スグ効く

ジリ効く

ユーザー定義を利用する

「用語集」のコンテンツはSEO対策としてもサイトの内容を充実させる意味でも効果的なコンテンツのひとつです。ところが、用語集を作った効果を正確に測るのは簡単ではありません。用語集を参照した訪問者がそのときに表示したページだけではなく、時間を置いてから再訪するデータも集めなければ正確な効果はわかりません。

Google Analyticsの「ユーザー定義」というしくみを使えば、この難題も解決できます。ユーザー定義とは、特定のページを表示したり、特定のリンクをクリックしたりしたときに特別なcookieをセットして、訪問者を定義する機能です。ユーザー定義のcookieは「パーマネントクッキー」という期間が長いcookieを使用しているため、長い期間のユーザーの行動を追うことができます。ここでは「用語集のページを1回でも表示した人」を「用語集ユーザー」として定義して、区別します。そのためには、以下のようなスクリプトを用語集のページ（ページが複数あるときはすべてのページ）に設定します。

こうすると、用語集を表示した訪問者をそれ以降「用語集ユーザー」として認識できるようになり、Google Analyticsの「ユーザー定義」画面でそのあとの行動を確認できます。このデータが用語集を閲覧していない訪問者よりも優秀であれば、その差が用語集の効果と考えられます。

用語

cookieP.197
SEOP.198
コンテンツP.199
ユーザー定義P.201

Tips ユーザー定義はcookieに保存される

ユーザー定義は、訪問者のブラウザのcookieに保存されます。訪問者が意図してcookieを受け付けない設定にしていたり、削除した場合はユーザー定義を行うことはできません。

● ページを表示したときに「用語集ユーザー」というユーザー定義を設定する

```
<body onLoad="javascript: __utmSetVar('用語集ユーザー');">
```



<body>タグの中にユーザー定義を設定する

注意 新しいga.jsのトラッキングコードを使用している場合は、「__utmSetVar」の部分を「pageTracker._setVar」と変更する必要があります